

国語科学習指導案

世羅町立甲山小学校

指導者 村上 信孝

1 学年 第6学年 男子15名 女子11名 計26名

2 単元名 「絵を語る文を書こう」

教材名 『鳥獣戯画』を読む（高畑 勲）

3 単元について

- 本単元では、アニメーション映画の監督である高畑勲さんが解説と評価を述べた文を、自分の考えを持つために、必要な内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見との関係を押さえたりして読むことをねらいとしている。その中で、体言止めや語りかけの表現などの事実を伝えるための技法や、筆者が自分の考えを読者に伝えるための表現や構成の工夫についても学ぶことができる。また、友達と交流することを通して、自分の見方や考えをより広げたり深めたりすることができる単元である。

学習指導要領では、以下の指導事項に関わるものである。

「C 読むこと」

(1) ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

イ (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

本教材「『鳥獣戯画』を読む」の特性を次の2点あげる。

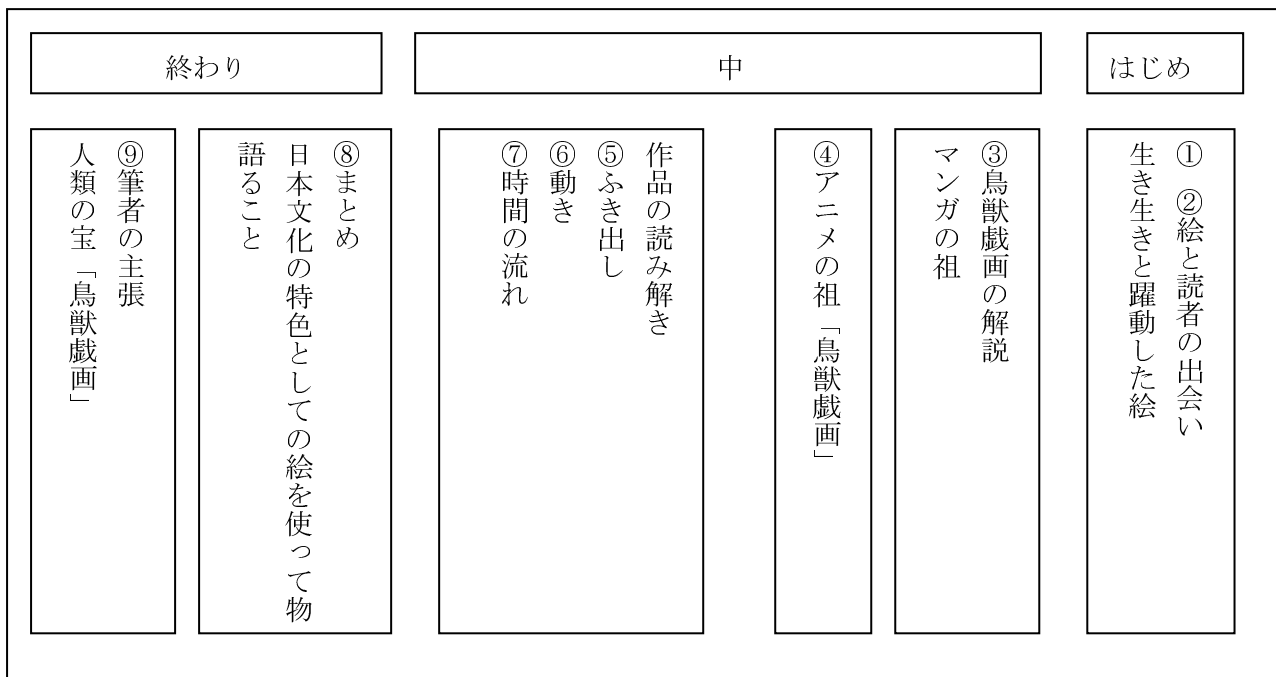
①筆者の意図を伝えるための表現や構成の工夫がある。

本教材の中で筆者は鳥獣戯画が人類の宝であることを伝えるために、絵の世界がまるで目の前で展開されているような描写表現で書き出した上で、細かな絵を読み解きその魅力を伝え読者の興味を引いている。また、鳥獣戯画がマンガの祖と呼ばれ、さらにはアニメの祖とも言えるという筆者の意見を具体的な理由を示しながら述べている。さらに、日本文化の大きな特色として絵の力を使って物を語るということが現在まで受け継がれていることを述べ、より筆者の主張に説得力を持たせている。

②アニメの監督としての視点から見て絵を評価している。

本教材の中で、アニメの監督という視点から「絵の中に吹き出しのような表現がある」、「動きのある絵になっている」、「時間の経過を感じさせる」というアニメに通じる点を取り上げている。筆者がアニメの監督をしている立場から、鳥獣戯画の素晴らしさを伝えようとしていることが分かる。

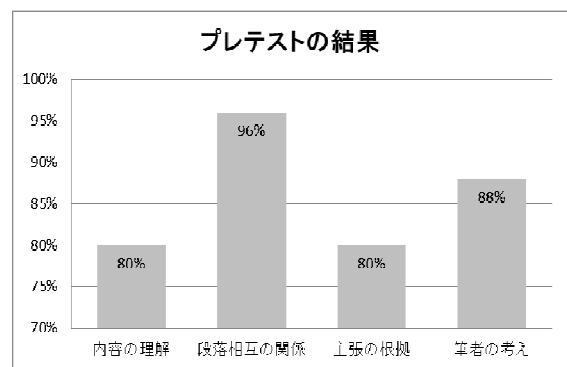
本教材の構成を次のようにとらえる。



以上のことから、事実と意見をつかんで筆者の意図を読み取り、自分のものの見方を広げたり深めたりする力を付けることができると考え、本単元を設定した。

- 本学級の児童は、1学期に「感情」「生き物はつながりの中に」の説明文を学習している。その中で段落相互の関係や筆者の表現の工夫、筆者の考え(要旨)をまとめることを学習している。また、筆者の考えに対する自分の考えを持ち、意見文を書く学習をしている。

本学級の児童の実態を把握するためにプレテストを行った。結果は次のとおりである。この結果から、段落相互の関係を読み取ったり、筆者の考えを読み取ったりすることはできるが、内容を的確に押さえて読むことや、筆者の主張の根拠となる叙述を見つけることを苦手としている児童が多いことが分かる。また、筆者の考えを読み取ることはできてもそれを基に自分の考えを持ち、表現することに抵抗のある児童もいる。



- 指導にあたっては、具体的な手立てを次の3点示す。

① 筆者が絵のどのような事実を根拠として、解説したり評価したりしているのか本文に書き込ませる。

事実と感想、意見とを絵と本文を対応させながら読むことで、事実と感想、意見をどうつなげているのか理解させていく。そのことを受け、絵に対する筆者の感想や意見に対して、自分の考えや感想をまとめさせる。

② 「⑤、⑥、⑦段落」と「④段落」とのつながりを考えさせる。

筆者がアニメの監督という立場から鳥獣戯画を見ていることを確認し、④段落の「アニメの祖である」ということに着目させる。そして、⑤⑥⑦段落に書いてあるアニメの表現技法とつながる書きぶりに気付かせる。筆者が、鳥獣戯画が「日本文化の大きな特色を持ち、何事にもとらわれない自由な心を持った祖先たちが大切にしてきた人類の宝である」ことを「アニメの祖であること」を解説することで主張していることに気付かせる。

③文章を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめたり、友達の考えを聞いたりさせる。

筆者の考えを基に、新しく知ったことや、自分のものの見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめて話し合い、同じ題材でも、いろいろな受け止め方があることを知り、ものの見方を広げたり深めたりさせる。その際、「筆者の考えについて」「取り上げている絵について」「十二世紀の絵巻物について」「筆者の文章の書き方」についてなどのテーマを与えて考えをまとめさせる。

4 単元の目標

- 絵巻物などに興味を持ち、文章を読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ◎ 事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。 (読むこと)
- ◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読むこと)
- 文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元全体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「鳥獣戯画」に興味を持ち、文章を読もうとしている。	鳥獣戯画と文をつなげ、事実と感想・意見などとの関係を押さえている。 筆者の感想・意見に対して自分の考えを明確にしながらか読んでいる。 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

6 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動：絵を語る文を書き、友達に知らせること

本単元では、「自分で選んだ絵を見てそれを語る文を書き、友達の文章を読んで広がったものの見方を交流すること」を最終目標の言語活動としている。絵を語る文には、絵のどこを取り上げるかを決め、筆者の表現や構成の工夫を参考にしながら絵を語る文を書き、読み合うことで自分の考えを広げたり深めたりする活動を行う。

本単元で絵を語る文を言語活動に取り入れた理由は、自分が絵のどこに着目したのかを、筆者の表現や構成の工夫を参考にしながら書くことができると考えたからである。また、それぞれが書いた語る文を読み合うことで自分の考えを広げることや、友達の考えを知ることにより自分の見方や考え方を深めることができると考えたからである。

7 指導計画（全10時間）

次	学習活動	関	読	伝	評価規準【評価方法】
1	○教材を読み，学習の見通しを持つ（1） 「絵を語る文を書こう」	○			・絵巻物などに興味を持ち文章を読もうとする。（関）【ノート・発言】
2	<p>〈第1段階〉 ○3部構成を大まかにつかむ。（1）</p> <p>〈第2段階〉 ○段落相互の関係をとらえ，要旨をまとめる。（1）</p> <p>○事実と感想，意見の関係を押さえ，筆者がなぜ，鳥獣戯画を人類の宝と言っているのか具体的な理由を読み取る。（2）</p> <p>〈第3段階〉 ○筆者の考えを伝えるための表現や構成の工夫をとらえる。（1）【本時6／10】</p> <p>○文章を読んで，新しく知ったこと，見方が広がったと思うことについて，自分の考えをまとめて話し合う。（1）</p>		○	○	<p>・3部構成を大まかにつかんでいる。（読）【発言・ノート】</p> <p>・段落相互の関係をとらえ，要旨をとらえている。（読）【発言・ノート】</p> <p>・文章を事実と感想，意見の関係を押さえ，なぜ筆者が鳥獣戯画を「人類の宝」と言っているのか具体的な理由を読み取っている。（読）【発言・ノート】</p> <p>・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み，語句と語句との関係を理解している。（伝）【発言・ノート】</p> <p>・筆者の感想・意見に対して自分の考えを明確にしながら読んでいる。（読）【発言・ノート】</p> <p>・筆者の考えを伝えるための表現や構成の工夫をとらえている。（読）【発言・ノート】</p> <p>・『「鳥獣戯画」を読む』を読んで，初めて知ったことや自分のものの見方が広がったと思うことについて，自分の考えをまとめて話している。（読）【発言・ノート】</p>
3	○「絵を語る文」を書こう（3） ・絵のどこを取り上げるかを決め，筆者の表現や構成の工夫を参考にしながら絵を語る文を書く。 ・文章を読んで広がったものの見方を交流する。		○		・文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりしている。（読）【紹介文・ノート】

8 本時の学習

○ 本時のねらい

筆者の意図を伝えるための表現や構成の工夫を読み取ることができる。

○ 本時の評価規準

筆者が絵を語る時にアニメの表現技法とつなげて書いていることに気付かせることを通して、筆者の意図を伝えるための構成や表現の工夫をとらえることができている。

○ 展開

学習過程	学習活動 発問 (○) と児童の反応 (・)	指導上の留意点 手立て (・) と評価 (*) 【評価方法】
つかむ	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆者は、自分の見方を読者に伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしているだろうか。</p> </div>	
考える	<p>2 筆者が絵を語っている部分の効果を考える。</p> <p>○筆者が絵を語っている部分の効果を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけるような口調によって身近に感じる。 ・問いかけとそれに対する答えがあることによって説得されるような気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・⑤段落から⑦段落を絵と文章を照らし合わせながら読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手立て 筆者が絵を語っている部分に線を引き、表現の工夫とその効果を考えさせる。</p> </div>
深める	<p>3 筆者がアニメの要素になる部分を取り上げて語っていることを読み取る。</p> <p>⑤ふきだし⑥動き⑦時間の経過</p> <p>4 筆者が表現や構成の工夫をした理由を考える。</p> <p>○筆者がこのような表現や構成の工夫を取り入れたわけを考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>筆者がなぜこのような書きぶりにしたのかを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣戯画がアニメの祖であるといわれる理由を「ふきだし」「動き」「時間の経過」の表現などから伝えたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>B 評価の例 筆者はアニメの監督という立場から「鳥獣戯画」を見て、読者に人類の宝であるということを伝えている。そのためにアニメとつながる、「吹き出し」「動き」「時間の経過の表し方」などを例に出して絵を語っている。そうすることで筆者の意図がより読者に伝わるようになっている。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>しかけ 筆者がアニメの監督という立場で文を書いていることを知らせ、④段落の「アニメの祖である」と⑤⑥⑦段落のアニメの要素につなげていく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者がアニメの監督であることを確認し、それぞれの表現の工夫がアニメの祖を強調していることに気付かせる。 *筆者が自分の意図を伝えるために表現や構成の工夫をしていることを読み取ることができたか。 【ノート・発言】 ・Cの児童には、吹き出し、動き、時間の経過等アニメの要素をキーワードとして使って書くことを話す。 【ノート・発言】
ふりか	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p>	<p>*今日の学習についての振り返りができた</p>

9 板書計画

「鳥獣戯画」を読む 高畑 勲
 絵を語る文を書こう
 表現や構成の工夫を見つけよう

⑤蛙の口から線が出ている
 一体これは何だろう…… 語りかけ
 気合いの声なのではないか
 説得

⑥絵が止まっている。動きがある。
 なぜ兎たちは笑っていたのだろうか……
 和気あいあいとした遊びだからにちがいない
 説得

⑦右から左へと流れていく
 次々と時間が流れている
 今度は君たちが考える番だ
 語りかけ

発問 筆者がなぜこのような書きぶりにしたのかを考えよう。

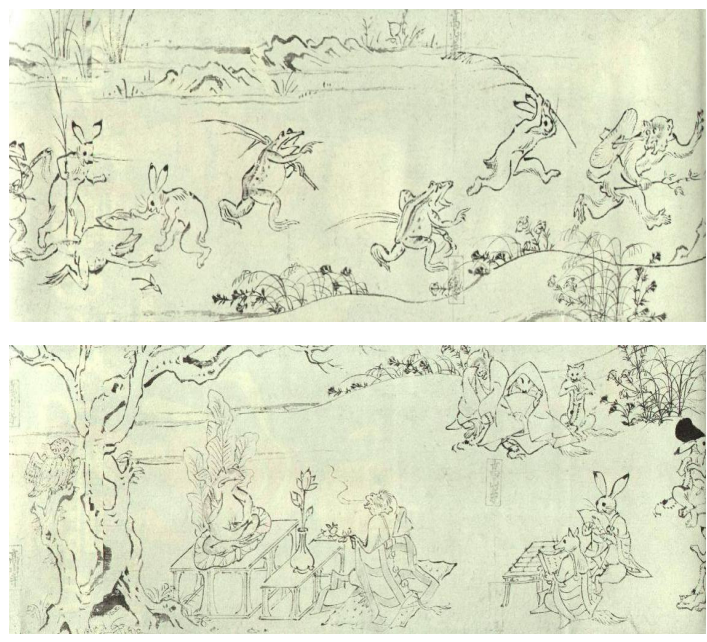
高畑勲さんIIアニメの監督
 鳥獣戯画がアニメの祖である
 アニメの表現と比較

ふきだし
 動き
 時間の経過

鳥獣戯画は人類の宝であることを伝えるためにアニメの表現方法と比較しながら表現や構成の工夫を自分分の意図を伝えようとしている。

10 めざす絵を語った文の例

「絵を語る文を書いてみよう」鳥獣戯画より



動きのある絵
 体言止め

「まてまてえ。」「まつもんか、ここまでおいで。」野原で猿が兎と蛙に追いかけてられている。よく見ると1匹の蛙がひっくり返っている。そのそばでは心配そうに声をかけている兎。どうやらこの猿が蛙の持っていた草をぬすんだようだ。仲間の蛙達はその草を取り返そうと必死で追いかけている。見ていた兎も応援に加わる。果たして仲間達は猿から草をうばい返せるのか。それとも猿ににげられてしまうのか。

語りかけ

「こちらの植物は世にもめずらしい植物です。」「でかしたぞ猿。」猿が蛙に話している。どうやらこの蛙は、えらい蛙のようだ。蛙は自分が望んだ植物が手に入ってとてもうれしそうだ。また猿はこの植物を手に入れるための苦労をさも自慢げに話している様子が口元の線や表情から分かる。しかしこの植物は実は猿が他の蛙からぬすんだものだということを蛙は知らない。

時間の経過
 ふきだし

本時は下線部及び吹き出しの部分です。